

【参考】交通誘導警備業務用機材

交通誘導警備業務では、一般車両の往来があり、特に深夜などでは周囲が暗く車両の運転手から警備員が見えにくいことなどからも接触による労働災害につながるおそれがあります。特に高速道路などでは高速で走る車両と接触すると重大な労働災害や一般車両が他の車両や作業員に衝突するなどの大規模な二次災害につながるおそれがあります。そのため、交通誘導警備業務用資機材の機能、使用方法などを把握することは、現場の安全確保や通行者や一般車両などの接触防止などに繋がります。



1. 標示板（例）

 <p>標示板（工事予告）</p>	 <p>標示板（工事中看板）</p>	 <p>標示板（内部照明型）</p>
--	---	---

掲示板等の設置にあたり、特に下記に注意しましょう。

- ① 車両と掲示板等との接触のおそれがあるため、交通誘導員を配置し安全を確認しながら設置作業を行いましょう。
- ② 原則として、交通の流れの上流から下流に向けて設置作業を行いましょう。
- ③ 工事の進捗に合わせて通行者や車両の運転手からよく見えるような設置位置や高さ、角度をチェックし、適宜移動しましょう。
- ④ 夜間は、作業場所を照明で明るく照らし、実際に状態が見えるように配慮しましょう。
- ⑤ 掲示板等は、強風や通行車両の風圧に耐えられるように設置しましょう。



2. 矢印板（進路指定標示板）、クッションドラム

	
<p>矢印板</p>	<p>クッションドラム</p>

矢印板には、折りたたみ式や夜間用など様々なものが知られています。状況に応じて適したものを選択して設置しましょう。

クッションドラムは、内部に水袋や砂袋が入っており、車両等の衝突時の衝撃を緩和する機材です。縦方向に複数のクッションドラムを設置することでより効果的に衝撃を緩和することができます。




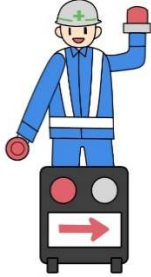
### 3. バリケード、セフティコーン、コーンバー等

	
バリケード	セフティコーン、コーンバー

バリケード等の設置にあたり、特に下記に注意しましょう。

- ① バリケードを連続して置く場合は、間隔を空けないように設置しましょう。
- ② バリケードの間には、セフティコーンや保安灯などを置いて規制区域を囲んで区域を明確にしましょう。

### 4. 警告灯、回転灯、工事用信号機、誘導ロボット

			
警告灯	回転灯	工事用信号機	誘導ロボット

近年照明には、LED を使用したものが主流となっています。

上記以外にも、様々な表示板やネオンチューブなどが用いられています。詳細は、警備員教育教本 交通誘導警備業務・雑踏警備業務編（一般財団法人全国警備業協会）や道路工事保安施設設置基準などを参照してください。